

新興国での支援政策によって世界の自然エネルギー発電容量 は記録的な水準へと急増

いまや自然エネルギーの成長を促す支援政策を採用する新興国は95か国に達し、
2005年のわずか15か国から6倍に達している。

2013年の自然エネルギーの発電容量は8.3%急増という新たな記録的な水準に達した。
これは世界の発電容量の正味の増加量の56%以上を占め、
世界のエネルギー消費量の約5分の1に達している。

日本の太陽光発電市場は世界2位へ、全体投資額は世界3位に躍進

自然エネルギーの拡大を支援するための政策を導入している新興国の数は2005年の15か国から2014年初めの95か国にまで、8年間で6倍以上に増加した。

今日では、世界144か国のなかで、こうした自然エネルギー支援政策や目標を導入している95の新興国が多数派を占める。自然エネルギー支援政策が後退、あるいは見通しが不確実になる、過去に遡って支援を縮小させるといった事例が見られる欧州や米国の一部とは異なり、新興国でのこうした傾向は対照的である。

この「自然エネルギー世界白書2014年版」Renewables 2014 Global Status Report: GSR2014”は、国連がニューヨークで主催する「すべての人に持続可能なエネルギーを」フォーラムで公表するもので、自然エネルギー支援政策が中心的な役割を果たすことを強調している。そのおかげで、世界の自然エネルギー発電容量は、2012年から8.3%増加して2013年末には1,560GW(15億6千万kW)に達するという記録的な水準を実現し、自然エネルギーは、現在、世界の発電電力量の22%以上に達した。

雇用においても、2013年には世界中で約650万人が直接あるいは間接的に自然エネルギー分野で働いていると推計されている。

2013年の世界の太陽光発電市場において、日本の年間の新規導入量が中国に次いで世界第2位となった。さらに、2013年の世界での自然エネルギーへの全体投資額において、日本は前年比80%増加し、世界第3位の市場に躍進している。

■本レポートの重要なポイント：

- 2013年1年間で、自然エネルギーは世界の発電容量の増加量（正味）の56%以上を占めた。
- 水力発電は4%増加して約1000GW(10億kW)に達し、2013年中に導入された自然エネルギーによる発電設備容量の約3分の1を占めた。水力発電以外の自然エネルギーは合計で約17%増加して560GW(5億6千万kW)に達したと推計される。
- 自然エネルギーは、2012年の世界の最終エネルギー消費のうち19%を供給し、2013年も増加し続けた。この2012年の世界の最終エネルギー消費のうち、10%は「現代的な自然エネルギー」であるが、残りの9%は減少しつつある「伝統的なバイオマス」によるものである。
 - ※（訳注）「現代的な自然エネルギー」とは、太陽光や風力、地熱、バイオマスボイラーなど現代技術を用いた効率の高い自然エネルギー利用。「伝統的なバイオマス」は、薪や炭などを用いた効率の悪いバイオマス利用のあり方を指す。
- 2013年には初めて、世界全体での太陽光発電の新規導入量が風力発電の新規導入量を上回った。
- 世界全体での太陽光発電への投資額が2012年に比べて約22%減少したのにも関わらず、発電設備の新規導入量は27%以上増加した。太陽光発電市場では2013年に38GW(3800万kW)が新規導入され、累積導入量が約138GW(1億3800万kW)に達して、記録的な年となった。中国は目を見張るような成長を見せ、世界全体の太陽光発電の新規導入量の約3分の1を占め、日本と米国がそれに続いた。
- 中国、米国、ブラジル、カナダ、そしてドイツは、依然として自然エネルギーの累積の発電設備容量で上位の座を保っている。
- 中国での自然エネルギーの発電設備の新規導入量が、化石燃料や原子力による発電設備の新規導入量を初めて上回った。
- 都市、州、地域レベルで、個々の部門や経済全体を100%自然エネルギーで供給する体制へと転換しようとする動きが増えている。たとえば、ジブチ共和国やスコットランド、小島嶼国であるツバルでは、2020年までに100%の電力を自然エネルギー源から供給することを目標としている。
- ウルグアイ、モーリシャス共和国およびコスタリカ共和国は年間のGDP対比率で最も自然エネルギーによる発電や燃料に投資している国々である。

- 2013 年には 35GW(3500 万 kW)以上の風力発電が新規導入され、累積で 318GW(3 億 1800 万 kW)以上に達した。しかし、過去数年間に記録的な年があったものが、米国の風力発電市場の急激な縮小の影響を大きく受けて、風力発電市場全体としては 2012 年と比べ約 10GW(1 千万 kW)減少した。しかし、洋上風力発電は、新規導入量の 1.6GW(160 万 kW)の内のほとんどが欧州(EU)で導入され、記録的な年となった。
- 現代的なバイオマスや太陽熱、地熱の資源を利用した冷暖房の占める割合は小さいものの、世界の最終熱需要に対する割合は徐々に増加しており、合わせて 10%に達すると推計されている。
- 2013 年の世界の自然エネルギーによる発電と燃料への投資額は少なくとも 2494 億米ドルで、2011 年の記録的な数字から減少した。

REN21(21 世紀のための自然エネルギー政策ネットワーク)の議長であるアルソロス・ゼルボス(Arthouros Zervos)氏は「世界の自然エネルギーに対する認識は大きく変化した」と述べている。さらに、「過去 10 年間にわたる継続的な技術の進歩と自然エネルギー技術の迅速な展開によって、問題はもはや、自然エネルギーがエネルギーサービスを提供する役割を担えるかどうかではなく、全ての人々がエネルギーを手にした自然エネルギー 100%の未来を実現するために、どのようにしたら現在の導入ペースを最大限加速できるだろうか、というものになってきた。これを実現するためには、現在の考え方を変えなければならない。現状の寄せ集めの政策や取り組みを継続するだけでは、もはや不十分だ」と述べた。

(日本語版編集：認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所)

こちら(<http://bit.ly/11OM8QT>)でメディア用の要旨(エグゼクティブサマリー)がダウンロード可能です。REN21「自然エネルギー世界白書 2014 年版」(Renewables 2014 Global Status Report)の報告書は、6 月 4 日水曜日の 12:30 に「すべての人のための持続可能エネルギー」国連フォーラムにおいて国連ドイツ政府代表部により発表されます。

■日本国内での問い合わせ先：

認定 NPO 法人 環境エネルギー政策研究所 (ISEP)

URL：<http://www.isep.or.jp/>担当：松原、山下

お問い合わせ：https://www.isep.or.jp/about_contact

TEL：03-5942-8937, FAX:03-5942-8938